

## 「立ち上がる農山漁村 ～新たな力～」選定団体概要書

### 1. 「新たな力」団体等名称

弘前大学農学生命科学部地域環境科学科

### 2. 協働している取組の名称及び応募団体名

取組の名称：農家蔵の保存利活用とグリーン・ツーリズム

応募団体名：NPO 法人尾上蔵保存利活用促進会（事例 No.7）

### 3. 協働している取組の概要

旧尾上町には 334 の蔵が現存し、その 94%が農家所有の蔵である。NPO 法人尾上蔵保存利活用促進会では、今では建造主、建てる職人もいない農家蔵を文化遺産であると位置づけながら、蔵保存と利活用を推進している。

「農家蔵のまち」全国ブランドの確立のため、大学等教育機関との連携により町内の蔵の調査を行い、国登録有形文化財への登録申請を行い、平成 17 年には 22 棟の農家蔵が全国で初めて登録された。

また、県内外のNPO 法人やグリーン・ツーリズム推進団体、旅行会社等との連携により、「蔵マップ」「蔵ジャーナル」の発刊、蔵・農家庭園ウォッチングの開催、修学旅行農作業体験ファームステイ及びセカンドスクールの受け入れなど農村文化と蔵の魅力を全国に発信している。町商工会との共催事業である「蔵巡り・庭園巡り」は有料であるが、毎年約 3,000 人の来訪者を確保し、地域経済の活性化に貢献している。

活動の実施に当たっては、地域案内人（蔵ガイド）育成とスタッフ発掘、グリーン・ツーリズムインストラクター、コーディネータースクール養成講座を開設するなど、地域の人材発掘と育成を合わせて行っている。

そのほか、農家蔵ブランドの商標登録により、商工業者との連携で土産品、はがき、Tシャツ、農産物加工品等の商品開発を行うなど多様な方法で「蔵文化」を発信している。

### 4. 取組への協力のポイント

弘前大学農学生命科学部地域環境科学科では、同学科谷口建教授が活動主体である「尾上蔵保存利活用促進会」設立前の平成 13 年に、現事務局長の佐藤正彦氏から尾上町の蔵調査の依頼を受けたのをきっかけに、地域環境科学の専門的知見を基に、尾上町全地域の蔵の数、屋根・壁の色、腰模様などの調査を行ってきた。

調査を通じて、これまで、特別なものとして意識されることのなかった農家蔵という地域の文化的資源の保存・利活用を意識するようになり、平成 14 年の尾上蔵保存利活用促進会の設立に際して、谷口教授も同会の理事として参加し、同研究室生とともに尾上町全地域の蔵データを収集した蔵マップを作成した。

このほか、蔵・農家庭園ウォッチング時のガイド派遣、修学旅行農作業体験やファームステイ受入時の現地対応スタッフとしての学生派遣や、国登録有形文化財蔵・蔵並み通りライトアップ事業等イベント時の企画・運営に際しての助言及び人的協力など応募団体の活動を全面的に支援している。

また、毎年、スタッフとして参加した学生は卒業論文で「蔵文化」をはじめとする農村景観を取り上げるなど、会との結びつきを強めている。